

2011年度「コンクリートと木のコラボレーションによる持続可能な住まいと地域住環境の設計」連続シンポジウム

主催 日本建築学会近畿支部、グリーンコンクリート研究センター

企画 同支部 材料・施工部会、環境工学部会、設計・計画部会、住宅部会、木造部会

後援 国土交通省近畿地方建設局、農林水産省近畿農政局、環境省近畿地方環境事務所
コンクリート関連16 団体

日本建築協会、近畿建築士会協議会、日本建築家協会近畿支部、日本建築材料協会、
日本建築構造技術者協会関西支部、日本建設業連合会関西支部（建築）、日本建築総合試験所、
日本建築士事務所協会連合会近畿ブロック協議会

日本建築学会近畿支部とグリーンコンクリート研究センターは、昨年度に続き「コンクリートと木のコラボレーションによる持続可能な住まいと地域住環境の設計」に関する設計競技と連続シンポジウムを実施します。

連続シンポジウムでは、当支部の材料・施工部会、都市環境部会、設計・計画部会、住宅部会、木造部会が独自に下記のシンポジウムを開催いたします。

つきましては、多くの皆様にご参加いただきますようお願いいたします。

第1回シンポジウム 都市環境部会

「都市環境の視点から持続可能な住まいと地域住環境を考える」

趣旨：

日本建築学会近畿支部都市環境部会では、ヒートアイランド現象が顕著に確認される近畿地域の都市域を対象として、実態把握や対策方法の検討、評価などについて、関係の自治体とも連携し、情報交換や共同での測定等を実施してきた。

本シンポジウムでは、最近の部会活動の成果に基づき、都市ヒートアイランドの実態と対策の現状、及び、建築材料等の工夫による建築物外部空間の熱環境改善効果について、最新の研究事例を紹介し、都市環境と持続可能性との関係について議論を行う。

都市ヒートアイランドの実態と対策に関する話題では、海風による気温低下効果が期待される大阪地域において、都市環境の改善と持続可能な都市の観点から、コンパクトエコシティや大阪市により策定された「風の道」ビジョン【基本方針】などをキーワードとして、今後の都市の在り方をどのように誘導することが適切であるかについて議論する。

建築材料等の工夫による建築物外部空間の熱環境改善効果に関する話題では、今年度より大阪ヒートアイランド対策技術コンソーシアムにおいて開始された認証制度の評価方法や評価基準と熱環境改善の関係などにも言及し、都市環境の改善に向けた新たな技術開発の可能性などについて議論する。

【企画】 日本建築学会近畿支部 都市環境部会

【日時】 2011年11月19日（土） 13時30分～17時

【会場】 大阪科学技術センター 8階 小ホール（大阪市西区靱本町1-8-4）

【定員】 80名（申込先着順）

【内容】 趣旨説明：鍋島美奈子（大阪市立大学、都市環境部会主査）

講演

1. 実測調査に基づく検討－風の道ビジョンなど
鍋島美奈子（前掲）、榎元慶子（大阪市立環境科学研究所）
2. 数値モデルに基づく検討－コンパクトエコシティなど
森山正和（摂南大学）、竹林英樹（神戸大学）
3. 木材等の対策による熱環境緩和方策
吉田篤正（大阪府立大学、前都市環境部会主査）、木下進一（大阪府立大学）
4. コンクリート、ブロック等の対策による熱環境緩和方策
西岡真稔（大阪市立大学）

パネルディスカッション：（司会）吉田篤正（前掲）

まとめ：森山正和（前掲）

第2回シンポジウム 住宅部会

「災害に備える住まい・地域住環境の構築と建築士の役割」

趣旨：

住まいの原初的機能はシェルターであり、安全性の確保は、住まいが当然備えるべき基本的な要件の1つである。地震等の自然災害で大きな被害が生じるたびに私たちはこのことを痛感する。しかしながら、住まい手が平時においてもこの点を意識し、日常的な維持管理活動はもとより、住宅ならびに身近な地域住環境の点検を行い、耐震診断や耐震補強等の措置を講じるなどして災害に備えているとは言い難い状況がある。

一人ひとりの住まい手が災害に備え、住宅ならびに居住地の課題を認識し、対策を講じるならば、住まいや地域住環境の持続可能性は格段に高まるはずである。本シンポジウムでは、そのような営みを方向付け、担保する住まいや地域住環境のあり方やその実現方法を考えるための切り口として建築士の役割に注目する。建築士は、住まい・まちづくりの重要なステークホルダーであり、住まい手の住まい選択や住まいの維持管理活動に大きな影響を及ぼす立場にあるからである。1.17ならびに3.11を経て、住まい、地域住環境の持続可能性を高めるために、建築士は何ができるのか、また何をすべきなのかを、幅広く議論したい。

- 【企画】 日本建築学会近畿支部 住宅部会
【日時】 2011年12月2日（金） 18時～20時（受付17時45分～）
【会場】 大阪市立大学文化交流センター・ホール（大阪駅前第二ビル6階）
【定員】 100名（申込先着順）
【内容】 司会：檜谷美恵子（京都府立大学）
趣旨説明：高田光雄（京都大学、住宅部会主査）
講演
1. 東日本大震災への女性建築士会の対応
定行まり子（日本女子大学）
2. 建築士の社会的役割—阪神・淡路大震災の経験を踏まえて
野崎隆一（遊空間工房）
パネルディスカッション：高田光雄（前出、コーディネーター）ほか

第3回シンポジウム 設計・計画部会

「「仮設」される社会・空間の「本設化」に関する考察」

趣旨：

災害により壊滅的な被害を受けた地域での再建・復興を考えると、長い年月をかけて地域・風土に育まれた「空間システム」をいかにして新しい街に「継承」するのか、コミュニティにおける人のつながりや記憶をどのように「復興」するのが大切な課題である。この継承か分断かの鍵は、従前と従後の間にある「仮設」のあり方に委ねられていると言えよう。

主題解説では、山口秀文先生より、インドネシア・ジャワ島中部地震における集落の住宅再建調査を中心に、木造や竹造など簡易な仮設的建物であっても、元の敷地から「オンサイト」でいち早く生活を始めることが、後から本設化される住宅に「屋敷構え」を再構築させることの意義を解説いただく。

一方、オンサイトでの仮設が難しい状況では、従前と仮設の暮らしを通して、どのようにコミュニティを継続し、やがて本設される住宅に継承・再構築していけばよいのかが課題になる。阪田弘一先生からは、阪神淡路、中越、東日本大震災における調査・支援活動を踏まえ、避難所に転用された施設や空間、試験的に取り入れられた木造仮設住宅にも言及しながらこの課題に迫っていただくとともに、「仮設」住宅における生活文化の継承に向けた可能性についても触れていただく。

東日本大震災のような津波被害からの復興では、高台移転が重要な選択肢の一つとなる。牧紀男先生からは、国内外における被災地での調査・支援活動のご経験から、移転先での生活がうまく再構築されている事例をご紹介いただき、成功事例において被災直後の仮設応急的な暮らしのあり方がどのように寄与しているのかの解説をいただく。

ディスカッションでは、「仮設」の社会・空間が従前と従後をつなぐ重要な中継媒体であること、コミュニティの持続可能性からみた構法・材料の再評価、「復旧」と「復興」に共通する大切な考え方などについてご議論いただく予定である。

- 【企画】 日本建築学会近畿支部 設計・計画部会
【日時】 2011年12月3日(土) 13時30分～16時
【会場】 大阪科学技術センター 8階 小ホール (大阪市西区靱本町1-8-4)
【定員】 80名(申込先着順)
【内容】 司会：川窪広明(大手前大学、設計・計画部会幹事)
趣旨説明・問題提起：

木多道宏(大阪大学、設計・計画部会主査)

主題解説：

- ① オンサイトの「仮設」建物による空間システムの再構築
山口秀文(神戸大学)
- ② 「仮設」住宅における生活文化の継承の可能性
阪田弘一(京都工芸繊維大学)
- ③ コミュニティの移転事例における「仮設」市街地の役割
牧 紀男(京都大学)

ディスカッション コーディネーター：木多道宏(前掲)

第4回シンポジウム 材料・施工部会 「コンクリートの耐久性について」

趣旨：

日本建築学会近畿支部材料施工部会では、これまで、鉄筋コンクリート造構造物の品質向上に対して、レディーミクストコンクリートの環境温度性状やポンプ圧送技術を検討したり、構造物の耐久性にかかわるひび割れ・補修・補強の制御マニュアルを整備したりしてきた。これらの研究活動の一環として、本会常置委員会の一つである材料施工本委員会の前年度委員長であった榊田佳寛教授(宇都宮大学大学院)を迎えて、コンクリートの耐久性について講演していただく機会を設けた。

地球環境問題がクローズアップされている近年、人々が今後も豊かな社会生活を行う上には、さまざまな分野において、持続可能性に対する具体的な技術が求められている。コンクリート工学分野においても、コンクリートの耐久性が及ぼす持続可能性の追求は重要である。

今回、鉄筋コンクリート造構造物の持続可能性を具体化するコンクリートの耐久性について、広く深く学んでいただきたい。

- 【企画】 日本建築学会近畿支部 材料・施工部会
【日時】 2011年12月6日(火) 13時30分～16時
【会場】 常翔学園大阪センター
(大阪市北区梅田3-4-5 毎日インテシオ3階)
【定員】 100名(申込先着順)
【内容】 1. 趣旨説明：中村成春(大阪工業大学、材料施工部会幹事)
2. 講演：榊田佳寛(宇都宮大学) 「コンクリートの耐久性について」
3. 意見交換 および まとめ
：岩清水 隆(竹中工務店、材料施工部会主査)

第5回シンポジウム 木造部会

「持続可能性に関わる木造建築の役割について考える」

趣旨：

日本建築学会近畿支部木造部会では、木構造の構造力学的再構築と性能規定設計法に関する問題を重点課題として建築構造的な視点から取り組むとともに、木造住宅ストックを活かすための再生・再活用、木造・木の文化の再生と伝統継承に関する課題にも取り組んできた。

日本古来より伝承されてきた木造建築の構法は、時代を経るに連れて徐々に変化を遂げてきたが、これらの変化には、日本人が木造建築に表現したかったディテール、木造建築と豊かな日本の自然が織り成す調和的景観、幾多の災害に見舞われてきた先人が安心して生活を営むための安全な住宅空間の構築、に寄与する技術的なメッセージがこめられているものと考えます。

本シンポジウムでは、文化の伝承や保守・維持管理などの視角から持続可能性に関わる木造建築の役割を捉え、木造住宅での生活を機軸とした私たちの社会環境を維持していくことの意義について議論したい。

【企画】 日本建築学会近畿支部 木造部会

【日時】 2011年12月16日（金） 14時～17時

【会場】 大阪府建築健保会館 6階ホール
（大阪市中央区和泉町2-1-11）

【定員】 70名（申込先着順）

【内容】 趣旨説明：向井洋一（神戸大学、木造部会）

講演

【第1部】木造・木の文化の伝承—まち・いえ・ひと

1. 木造家屋のある町並みと住環境 橋本清勇（広島国際大学）
2. 古民家の再生・再活用 小原公輝（輝建設）
3. 木造文化の伝統継承と人材育成 西澤政男（西澤工務店）

【第2部】木造建築の構造技術—つくりとしくみ

4. 木造建築における土壁 村上浩史（丸浩工業）
5. 木造建築の耐震要素の力学的検証 中治弘行（鳥取環境大学）

意見交換 および まとめ：清水秀丸（建築研究協会）

（各講演の演題・話題提供者については変更させていただく場合があります。詳細は日本建築学会近畿支部のホームページにて紹介します。）

《参加申込みの方法は、各回とも下記のとおり共通です。》

【参加費】 無料（ただし、資料代は実費（500円程度）徴収いたします。）

【申込方法】 当支部ホームページ、E-mail または FAX にて、シンポジウム名・氏名・所属・連絡先・TEL を明記してお申込み下さい。

定員を超えた場合のみその旨を連絡いたします。

【問合せ・申込先】 日本建築学会近畿支部

E-mail: aij-kinki@kfd.biglobe.ne.jp

TEL: 06-6443-0538 FAX: 06-6443-3144